

受賞作品

選んだ一行に続いて
受賞エッセイを
掲載します。

大賞

井上紗良

さん

(横浜市立上白根中学校)

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ／河野万里子訳



星々が美しいのは、ここからは見え
ない花が、どこかで一輪咲いてるから
だね……

一年の時、横浜美大の卒業制作展に行かせてもらったことがある。そのとき私はある一枚の絵と出逢った。廃墟が描かれた絵、だったと思う。名前も製作者も、ましてやその絵の詳細を記憶しているわけでもないが、あの絵を見たときの感動は今でも憶えている。

それ以来、私は廃墟というものを好きになった。なぜ廃れた空間を見て美しいと思えるのか。そう考えていた時、この一行と出逢ったのだ。

私は廃墟のことをその場所として死んだものだと思っている。そんなものにどうして心を惹かれるのか。それはきつと、王子さまがいうように「見えない花が一輪咲いているから」なんだろう。一歩踏み出せば抜けてしまいそうな床、落書きや汚れでおおわれた壁、蔦が絡まったり苔が生えたりしている風景を好きだと思えるのは、その廃墟での出来事や時の流れ、廃墟に残された想いなどの様々なのが私には見えないところにあるからだ。